平成28年10月8日
第13回新潟県作業療法学会

# ポリオ後遺症に脳出血を合併した利用者の復職支援
# ～排泄動作の獲得が就労につながった症例～


○高野友美（OT）[1)]　北上守俊（OT・ST）[1, 2)]
西片寿仁（PT）[1)]　秋山明美（OT）[1)]
野本規絵（MD）[3)]　荻荘則幸（MD）[4)]

1）新潟県障害者リハビリテーションセンター
2）新潟リハビリテーション大学
3）下越病院
4）ゆきよしクリニック

# 【はじめに】

　ポリオ後遺症に脳出血を合併した症例の復職支援に携わった．課題である排泄動作を獲得し，在宅サービスを利用しながらリハビリ出勤，復職へとつながった．今回は排泄動作と復職支援に着目して報告する．

# 【症例紹介】

■**年齢・性別**：A様　50代後半男性
■**診断名・障害名**：ポリオ後遺症（右上肢・左下肢の筋萎縮／筋力低下）
脳出血（左上下肢麻痺）
■**生活歴**：
幼少期のポリオにより右上肢及び左下肢麻痺あり．14歳時に右肩関節固定術施行し，可動域制限あり利き手交換を行ない，ADL全て自立していた．普通高校から大学に進学し，大学卒業後は公務員として勤務．就職後に結婚し，子供4人をもうける．
■**現病歴**：
サッカー観戦中に脳出血発症し，救急搬送される．リハビリ目的で回復期病院に転院．左上下肢麻痺となり，再び利き手交換を行う．退院後，ご家族の送迎にて当センター利用となる．
■**社会的背景**
・身体障害者手帳2級（通所にて当センター週3回利用）
・介護保険要介護4（訪問リハビリ週2回利用）
・家族構成：本人，妻，子供4人，祖母の7人家族
・経済状況：障害年金2級の受給あり．傷病手当受給中．妻はパート勤務している．
・住宅環境：一軒家の持家．退院時にトイレ，玄関に手すり設置済み．
・職業：公務員

# 【初期評価】

■**ニーズ**：出来るだけ自立した生活を送りたい
復職のためにリハビリを続けたい

■**身体機能面**：

| | | |
|---|---|---|
| **Br.stage（左上下肢）** | 上肢Ⅰ，手指Ⅱ，下肢Ⅲ | |
| **感覚（左上下肢）** | 表在深部ともに重度鈍麻 | |
| A-ROM | 右肩関節屈曲・外転 | 60度（右肩関節固定術施行） |
| MMT | 右肩関節屈曲・外転 | 4⁻ |
| | 右肘関節屈曲 | 4⁻ |
| | 右肘関節伸展 | 2 |
| **右握力** | 3.5kg（第2指屈曲制限あり，把持動作は主に母指と第3～5指にて行なう） | |

■**高次脳機能面**：

| | |
|---|---|
| **TMT** | |
| PartA：57秒 | PartB：206秒 |
| **かな拾いテスト** | |
| 無意味28個（エラー10個） | 物語29個（エラー15個） |
| **WAIS－R** | |
| 全知能指数104 | （言語性知能指数123　動作性知能指数79） |

中等度
注意障害

# 【初期評価】

■**ADL**：FIM　85点（運動項目52点，認知項目33点）

| | |
|---|---|
| 食事 | 右手でピンセット箸，ユニバーサルスプーン，ふちの広い皿を使用し肘屈曲と頚部屈曲にて摂取．エプロン着脱と食器のセッティングは介助． |
| 更衣 | 上衣，下衣ともに全介助． |
| 排泄 | トイレットペーパーの巻取り，下着・下衣の上げ下ろし介助．<br>便座への移乗は手すり使用して自立． |
| 移動 | 屋内車椅子右足こぎで自立<br>（自宅内はロフストランド杖使用して歩行自立）<br>階段は手すり使用して見守り |

■**IADL**

<u>パソコン操作</u>

一般的なキーボードでは上肢の操作範囲が広く疲労感を伴うため，コンパクトキーボードを使用．マウス操作も自立．しかし右第3～5指を使用してタッチするため時間を要する．ITサポートセンターの協力を得て音声入力アプリをインストールし，言葉をパソコン内のメモ機能に文として残し，Wordに貼りつけて文章作成が可能．

# 【支援課題の整理】

■職場からの課題

・排泄動作の自立

・週5日フルタイム勤務できる体力

・車椅子移動の自立

→ **リハビリ出勤の開始**

■支援目標

①排泄動作の自立

排泄動作を検討し，動作の定着を図る

②フルタイム勤務に向けた体力・移動能力の獲得

フルタイム勤務を想定し5日間朝から夕方までサービスを利用し自宅外で過ごす

職場内の段差等も車椅子で安全に移動できる能力を獲得する

③リハビリ出勤を実施し，職場環境の確認

出勤を通して生活リズムや疲労感，職場内の移動や排泄動作，昼食の摂取方法，想定業務等の確認を行なう

# 【経過①排泄動作の検討】

## サスペンダー・ループ

右上肢で下着と下衣を引き上げる必要があり，サスペンダーやループを使用.
しかし，右上肢の可動域では左臀部の引き上げが十分に行えなかった.

## 巻きスカートズボン

巻きスカートズボンの使用を提案する.
排泄時に職員がトイレにて動作を確認.
巻きスカートをめくる動作は問題なく行えていたが，
陰部が見える不安があり他の手段の検討を希望される.

**巻きスカートズボン**

ズボンのファスナー下部をほどきそのまま排泄できるようにし腰から下の前部分だけスカートのように覆ったもの

## コンドーム式カテーテル

当センター利用日にコンドーム式カテーテルを試す．パックが見えないようにしたいと希望あり，車椅子下にネットを張り，ベッドサイド用のパウチを足元に収納して実施．初日は漏れる不安が強く，無意識に排泄を我慢する様子が見られた．7回使用を継続し、排尿があり成功することもあったが，それ以上に尿圧でコンドームが外れることが多く，大きさを変えても同様であった．A様は尿意があり，尿を溜めた状態で排泄するため，コンドームでは固定力が弱く，外れてしまっていた．

## 巻きスカートズボン

自立

ご本人より再度巻きスカートズボンを試したいと希望あり，排泄時に着用してもらい動作の確認を行なう．巻きスカートをめくる動作は問題なく行えていた．トイレットペーパーの巻取りについては車椅子アームレストに水に流せるポケットティッシュを取り付けて対応した．使用を繰り返すにつれ陰部が見える不安も少なくなり，復職するにはこの手段が必要だと納得され，当センター利用時は巻きスカートズボンを着用して過ごしてもらい定着を図った．

# 【経過②体力・移動能力の獲得】

■週5日フルタイム勤務を想定し，相談支援専門員、ケアマネージャーと連携し障害福祉サービス・介護保険サービスの調整を行う

リハセンター週3回
（火・水・金）
訪問リハビリ週2回（月・木）

→

リハセンター週3回
（火・水・金）
デイサービス週2回（木・土）
訪問リハビリ（月）

■職場環境確認にて動線上に点字ブロックや配線カバーがあり，車椅子にて越えなければいけないことが分かる

自立

→

右上下肢右下肢筋力強化，車椅子操作能力の向上として
個別リハビリや自主トレーニングの時間に施設内の点字ブロックや屋外の段差を利用して車椅子駆動練習を実施

# 【経過③リハビリ出勤の開始】

排泄動作定着（電気スイッチのみ介助）
週5日通勤可能な体力あり　車椅子移動自立
昼食はパンを用意し開封等の準備のみ介助
送迎は家族介助可能
業務はパソコン業務を想定

- 職場との情報共有
- リハビリ出勤時の動作確認，業務内容の確認，開始時期の検討

↓

半日（8:30～12:00）のリハビリ勤務開始（10日間）
主にパソコンを使用してメールチェックや文書の確認を行う
業務内容，排泄動作，車椅子移動で問題なし

- 勤務状況の確認
- A様，職場の課題確認
- フルタイムでのリハ出勤時の動作確認，業務内容の確認，開始時期の検討

↓

フルタイム（8:30～17:15）のリハビリ勤務開始（32日間）
昼食は同僚の介助により問題なし
音声入力の練習としてアプリを使用した業務日誌作成実施

- 勤務状況の確認
- 職場の復職への意向確認（復職時期の確認）
- 就労後のフォローアップ事業所の紹介

↓

**復職**

# 【考察】

**■復職につながった要因**

・排泄動作自立のためにご本人の能力に合わせた手段を見つけ動作定着まで支援し，その内容を復職先にも伝えることができた
→A様も職場も不安なくリハビリ出勤を開始できた

・職場や相談支援専門員，ケアマネージャー等の関係機関と情報共有しながらサービスを調整し，復職を見据えて段階的に支援を進められた
→課題の達成に合わせてサービスやリハビリ出勤の調整を進めることができた

・回復期病院退院後も機能訓練を継続しながら，復職支援ができた
→在宅サービスでの当センターの役割